

## 内からの包摂を維持する試み

——メキシコにおける性的少数者の教会の包摂と自律——（仮題）

上村 淳志

本発表では、16世紀から現在に至るまで国民の多くが同性愛嫌悪を掲げるカトリック教会の信徒となってきたメキシコにおいて、性的少数者の為の教会という空間がどのような活動を通じて社会的承認を受けて、どのように制度的に包摂されると同時にコミュニティとしての自律性を立ち上げてきたのかを検討する。その上で、そうした包摂と自律を求める教会という場において差異が露になってきた際、どのように多様性を維持しながら決定的な分裂を防いでいるかを分析する。そうした内的多様性を維持しようとする努力と技法は、他の運動における内的多様性保持の努力を照らし出し、マイノリティ運動内部のマジョリティとマイノリティの関係における包摂と自律の在り方を検討する道を切り開いてくれるはずである。

本発表で具体的に取り上げるのは、メトロポリタン・コミュニティ・チャーチ（Metropolitan Community Church, 略称MCC）の、メキシコ北部ヌエボ・レオン州にあるモンテレー市支教会の例である。MCCは1968年に迫害される性的少数者のクリスチャンを救うことを目的として米国で創設された教会であり、1984年からメキシコで多様性礼賛を旗印に布教を行ってきた。以来、MCCは、同性愛者のクリスチャンが社会的承認を受けられるべくメキシコで活動を展開してきた。実際、2005年にはメキシコ政府から宗教法人格を認可され、エイズ予防については州政府の関連機関と連携を取るまでになっている。こうした形で、MCCやそこに属する性的少数者のクリスチャンは、異性愛者というマジョリティの構成するメキシコ社会に一定程度は包摂され、そのことを通じて制度的な自律性を獲得してきた。

だが、MCCの包摂を通じた自律の達成は、メキシコ社会との関係でのみなされてきたものではない。同時に、新規成員をどのようにMCCに組み込んでいくのかという、性的少数者のコミュニティ内部の包摂活動によっても達成されている。ネットラジオで外に働きかけ、一時期教会内にネットカフェや美容室が設置されるなど、新規成員も来訪しやすい環境作りがなされている。そうした多様性を礼賛し、新規成員を呼びこもうとするMCCのモンテレー市支教会においても、多様性に基づく差異は対立の軸になることがある。その際、多様性を礼賛する立場ゆえに差異を解消したり攪乱したりしようとはせず、差異の線にそって対立が生じることを認めて、内的多様性を最大限保持していこうとする。そうした内的多様性を保持する技法と試みこそが、性的少数者のコミュニティ内部におけるMCCの自律と存続を達成させていることを示したい。（1098字）